

学校だより

川中 TIMES

Trying for your dreams

佐賀市立川副中学校

学校通信 第21号

令和7年2月7日

文責 校長 馬郡直樹

2月全校朝会 雪のため中止 「耐雪梅花麗」とは？

2月5日（水）に予定していた2月全校朝会は雪のため中止となりましたので、校長が話をする予定だった内容について記載します。以下、概要です。

「耐雪梅花麗」という言葉を知っている人は多いと思う。読みは、「雪に耐え、梅花麗し」である。その意味は「梅の花は冬の厳しい雪や寒さに耐え忍ぶからこそ、初春に美しく花を咲かせ、かぐわしい香りを放つ」という意味で、これを人間や人生に例えると「人間は苦難や試練に耐え、それを乗り越えた時に大きく成長し、大きなことを成し遂げることができる」と解釈できるということ。

この言葉は、明治維新という日本の近代化に貢献した西郷隆盛が、困難に負けることなく高い志をもって生き抜いてほしいとイギリスへ留学する甥に送った手紙の中の名言である。

2016年のオフに引退した広島東洋カープの黒田投手も、高校時代には三番手投手の補欠、大学でも有名な投手ではなかったが、この言葉を忘れず努力を続け、のちにメジャーリーグでも目覚ましい活躍をした。

人は生きていく中で様々な困難や苦しいことに会い、心が折れそうになる時もある。そんな時はこの「耐雪梅花麗」という言葉を思い出して、苦難に耐えて乗り越えれば、きっと大きな成長が待っていると思う。

3年生にとっては県立一般選抜まであと1か月。この1か月は人生を左右するくらい大事な1か月であり、この1か月の努力は合格という結果のためだけではないと思う。努力を1か月間継続することは、難しいことだが、1か月続けることができる人は、半年や1年以上努力を続けることができるようになるだろう。そして、粘り強く頑張る自分に会えると思う。今、困難に立ち向かい、そして美しい花を咲かせてほしいと思う。共に頑張ろう！応援しています！

働く人に学ぶ 「意志ある所に道あり」 開催（1年生）

1月24日（金）に1年生を対象に、様々な職業の方の話を聞き、将来の職業などについて考えることを目的に「働く人に学ぶ（第1弾）」を開催しました。今回は、佐賀広域消防局の野口翔大さんと元プロスノーボーダーの江口諒さんからお話を伺いました。野口さんからは「人のために人生を使うのもいいな」と思い消防士を志した。消防士は力仕事だけではなく、力のない人でも働ける部署もある。勉強を頑張った方が、職業の選択肢は増えていくので頑張してほしい」と。江口さんからは、「15才から本格的にスノボを始めて、誰よりも上手に滑りたい一心で努力した。意志ある所に道あり。いろんな方法があるので、やろうと思えば何でもできる。勉強はスノボの戦略や計画に必要。中学時代に英語をもっと頑張っておけばよかった」と講話がありました。

画像は配布した通信で御確認ください。

先輩に学ぶ 開催（2年生） 自分の可能性を広げるためには

1月16日（木）に2年生を対象に「先輩に学ぶ（私立高校編）」を開催しました。この学習は、各高校の先輩からの体験等を聞き、これからの学校生活や進路学習に活かしていくことを目的として開催しています。

今回は、佐賀清和高校の T さん、龍谷高校の E さん、佐賀学園高校の K さん、佐賀女子高校の N さん、杉森高校の S さんから話をいただきました。川中生へのメッセージとして、T さんからは「可能性を広げるためには、誰にでもできることを全力で取り組むことが大事。これからの1年間、やることをやって努力して卒業してください」、E さんからは「行きたい高校よりももう一段上のレベルの高校を目指して勉強すれば、より合格に近づけると思います」、K さんからは「勉強で自分の可能性を広げてほしい。努力をして力をつけ、進路実現をしてほしい。とにかく勉強が大事なので、一生懸命に取り組んでほしい」、N さんからは「中学生の時よりもっと知識をもっておけばよかったと思っている。本を読んで一般常識を持てば、自分の将来像が具体的にってくる。自分が楽しめるイメージがある学校を選ぶことが大事」、

S さんからは「自分の興味で高校を選ぶことも大事。将来は何か一つでも興味があることを選んでいけばいいと思う」とありました。

生徒の感想は、2年1組 YR さんは「高校に行くには勉強も大切だけど、まずは興味をもって調べることも大切だと知った。高校のことを調べて自分が興味をもった高校に入りたい」、3組 MS さんは「早いうちから高校を考えないといけないと感じた。私もやりたいことを見つけてしっかり考えて進路を決めていきたい」でした。

◆◆校内の掲示物の紹介～その2～◆◆

先日、全校生徒による他学年への応援感謝のメッセージや絵馬を紹介しました。

今回は第2弾として、「佐賀新聞の切り抜きから～図書委員の真面目なつぶやき～」を紹介します。この掲示物は、図書委員が新聞記事を選んでコメントを書いたものです。私は非常に素晴らしい取組だと思い、是非多くの生徒にも取り組んでほしいと思っています。その理由は、11月の全校朝会で、INPUT だけでは記憶が定着しにくいと話しました。読書は INPUT であり、感想を書くなど OUTPUT を加えることで記憶が定着し、内容をより深く理解することができます。加えて、思考力もアップします。是非、一口感想（真面目なつぶやき）に取り組んでほしいと思います。

そこで、一口感想（真面目なつぶやき）の書き方の例を紹介します。

基本の形は、「ビフォー」+「気づき」+「すること」です。例えば、「ビフォー：この本を読む前、私は〇〇でした」+「気づき：この本を読んで◇◇について気づきました」+「すること：今後は△△に取り組んでいきたい」です。

では、「天文学物理学者 BossB さんから新成人へのメッセージ『間違いから創造が生まれる 未知の世界を恐れず進んで』」の記事について2年1組の HS さんが書いた真面目なつぶやきを紹介します。「私は、BossB さんの TikTok を見たことがあり、すごい人だと思っていました。しかし、新聞記事を読んで、すごい人だけでなく、しっかりと自分の考えを持っている素敵な人だと思いました。私も BossB さんのように素敵な大人になりたいです。」

画像は配布した通信で御確認ください。

話をしてくれた5人の高校生＝多目的ホール

画像は配布した通信で御確認ください。

新聞記事とつぶやき＝図書室前